2次電池および触媒材料の XAFS 解析

(株)豊田中央研究所 分析·計測部 広瀬美治 e0432@mosk.tytlabs.co.jp

XAFSは従来から、非晶質系にも適用できる構造解析ツールとして大変注目を集めていたが、実験室では適用元素が 限られたり、測定に長時間要したために、汎用的な分析ツールとはなっていなかった。放射光を利用した XAFS では、そ れらの制限がないばかりか、精密な解析、微量元素の分析が可能となり、XAFS の応用範囲が大幅に拡大した。

我々は、電池(2 次電池、燃料電池)、触媒、ナノ材料を優先課題と位置付け、材料開発の現場で立ちはだかる壁をブレークスルーするのに役立ちたいという願いで材料研究グループと共同で XAFS による材料解析を進めている。まだ、 実用化に大きく貢献する画期的な成果は得られていないが、材料12時の指針となるデータが幾つか得られている。

リチウム 2 次電池では、充放電サイクルを繰り返すことによる劣化を抑えることが重要である。充放電サイクルで起こっている正極材料 LINIO2 の変化をコインセルを用い、生きた電池のまま分析(その場分析)することができた。フーリエ 変換スペクトルの第一ピークの解析により、充電(正極から Li が抜ける反応)に伴う(Ni-O6)配位多面体の変形を見出し た。変形はNiの平均価数および正極中のLi量とよく対応していた。充放電サイクルを繰り返すと配位多面体が放電状態 の形状に戻らなくなることがわかり、正極材料の劣化を原子レベルの構造変化として明らかにすることができた。

自動車用触媒は、排ガス中のHC、COを酸化し、NOXを還元するという相反する反応を担わされている。これを両立さ せるためには、触媒表面を理論空燃比に保つことが必要である。運転条件が激しく変動する中でこれを実現するために 触媒担体は酸素貯蔵能 OSC が必要である。我々は、CeO2 担体に ZrO2 を添加することにより OSC が飛躍的に増える ことを見出したが同時に、同じ組成でも合成条件により OSC が大きく異なることを見出した。フーリエ変換スペクトルの 第二ピークも含めた精密な解析により、OSC が最も大きな試料では Ce と Zr とが原子レベルで均一に固溶していること がわかり、最大の OSC が原子レベルの構造の最適化により実現していることが明らかとなった。

サンビーム研究発表会

2001年8月3日

2

2次電池および触媒材料のXAFS解析

(株)豊田中央研究所 分析·計測部 広瀬美治

TOYOTA CRDL, INC.

豊田中研のSPring-8への取組み[°]

<u>材料解析の目標</u>

材料開発のブレークスルーに貢献すること 材料設計の指針

材料屋と分析屋は、運命共同体

重点領域

触媒、二次電池、燃料電池、ナノデバイス 放射光利用への期待

従来の手法

X線構造解析、表面分析、電子顕微鏡 では得られない結果を得ること <u>放射光は新しいチャレンジの機会</u>

- TOYOTA CRDL, INC.

4

産業用専用ビームライン





コインセル



6



充電に伴う吸収端のシフト

8





EXAFSによる構造解析結果¹⁰





CeO₂ - ZrO₂系のOSC特性



CeO₂-ZrO₂のEXAFSスペクトル



L TOYOTA CRDL, INC.

フィッティングの結果

14

試料	配位数	r(A)	配位数	r(A)
CZ55-1	Ce-0 8	2.33	Ce-Ce 12	3.82
CZ55-2	Ce-0 7.88	2.31	Ce-Ce 8	3.77
			Ce-Zr 4	3.71
CZ55-3	Ce-0 7.32	2.30	Ce-Ce 6	3.78
			Ce-Zr 6	3.72
CZ55-1	Zr-0 4	2.18	Zr-Zr 6.40	3.66
	Zr-0 4	2.36		
CZ55-2	Zr-0 5	2.19	Zr-Zr 2.98	3.69
	Zr-0 3	2.31	Zr-Ce 4.01	3.76
CZ55-3	Zr-0 8	2.23	Zr-Zr 5.99	3.62
			Zr-Ce 6.01	3.75

L TOYOTA CRDL, INC.

13

CZ55の構造解析結果



まとめ

リチウム二次電池
Ni-O6配位多面体の不可逆変化
CeO₂-ZrO₂助触媒
複合酸化物における陽イオン配列

材料開発と分析結果の関連

16

TOYOTA CRDL, INC.